



ふるコンだより

発行責任者
宇部市ふるさとコンパニオンの会
会長 脇 彌生

あいかわらず心配な日々が続いております。冬期オリンピックで日本人選手の活躍に勇気づけられた矢先に、難しい国際問題が起こったりして。国内にもいろいろな影響があると思われませんが、政治にお願いして。新型コロナに関しては、まだまだ安心はできない状態ですので、お互いに注意しましょう。ふるコンとしては、屋外のガイドを中心に、マスク必須、消毒、そして参加定員を縮小して、皆さんと有意義な時を共有したいと思います。それでは、令和3年後期のイベントを振り返ります。

てくてくまち歩き 宇部市制 100 周年記念「100 年前の海岸線と沖ノ山とは？」

10/24

およそ 100 年前の地図を片手に、「沖ノ山炭鉱」と「東見初炭鉱」を結ぶ幹線道路を歩き、町名、地名、痕跡をたどりましました。

石 炭の積み出しは海が浅いので栈橋を突き出して船をつけます。潮待ちの船員たちが使った風呂屋や旅館もたくさんあったそうです。「塩湯」や「料亭」などの名前がそばの電柱に残っていました。

通りは「明治町」「大正町」「昭和町」と次第に町が広がっていったことが分かります。空襲で壊された炭鉱の施設の名残もあります。コンクリート塀やレンガ塀など今でも使われているところもあります。



宇部港東導灯

津和野出身で洋画家の安野光雅さんが高校時代に通ったという銭湯、港に入る船の導灯などを見て、東見初炭鉱があった所へ行きました。昭和 42 年まで操業していたので覚えている方や住んでいたという方もおられ、話が弾みました。門の位置やどんな施設があったかなどお客様から教えていただくこともありました。

最後にフジグランの屋上から昔の炭鉱の竪坑櫓があったあたりや炭住があった跡を見ていただきました。(佐伯)

てくてくまち歩き 「摩崖仏から平原八幡宮へ薫風の迫条路を歩く」

11/21

※5/29 薫風の頃の予定でしたが、諸般の事情により11月に延期となりました

好 天に恵まれた 11 月 21 日(日)、一行 18 名は晩秋の菩提寺山を目指し、西宇部ふれあいセンターを元気よく出発しました。途中、有帆緑地公園で息を整えた後、熊野神社に到着。お宮では格別なおもてなし(接待)を頂きました。九重の滝で気持ちを癒し、今回の目玉である摩崖仏へと向かいました。杉道(そまみち)は修験者達が踏破したと伝わる道らしく、難行を強いられました。

摩 崖仏(高さ 5m の花崗岩に彫られた 4m 弱の菩薩立像)詣りを済ますと、踵を返し平原八幡宮へ向かう。緩やかな下り坂が疲れた体には幸いでした。

平原八幡宮散策後は、迫条の家並みを眺めつつ足を運び、無事に西宇部ふれあいセンターへ到着しました。



摩崖仏

菩 提寺山の摩崖仏は昭和 53 年の山火事でその像体を露出させた当時、学会も交え大いに世間を賑わした様です。が、樹木の成長とは裏腹に葉隠れになってしまいました。今、あらためて拝観すると小粒ながらそのお姿には荘厳さが感じられ、お顔の表情の微妙な変化も感じられます。時

間毎の陽光が化粧の役目をしているのだろうか。世の中が早く元に戻る事を願わずにはいられませんでした。(白石)

てくてくまち歩き 「知っているようで知らない恩田運動公園のヒストリー」

12/4

今回の「てくてくまち歩き」は約 1.5 km の短めのコースで、恩田運動公園の今昔をゆっくりたどっていただきました。師走に入っの「てくてく」でしたが 27 名の参加があり、コロナ禍を考慮して「密」をさけ、2 班に分かれての公園内散策となりました。



宇部市伊田翁記念体育館前

意外と知られていない恩田運動公園の成りたちや歴史など、考えたこともなかったという方も多かったようです。参加者の皆様に昔の写真や古地図等でご案内しました。

古 地図を見ると恩田は何もない所でしたが、宇部の領主福原公が常盤池を築堤したことにより、灌漑用水が出来、田畑がうるおい人々が生活できるようになりました。皇紀 2600 年の奉祝記念事業として昭和 15 年に陸上競技場が完成しました。当時の中学生も動員されて、余分な土(※1)をトロッコで汗水たらして運んだそうです。翌年野球場も出来ましたが、戦時下の食糧難も相まって、イモ畑に転用される始末です。ご年配の方の中には少なからず「護国イモ」がトラウマになって、イモがきらいな人がいるとか。

戦 後復興も佳境に入り、日本経済の高度成長期に入った頃、俵田翁記念体育館が、宇部興産創業 60 周年記念事業として昭和 34 年に落成しました。後に宇部市に寄贈され、市・県のスポーツのみならず、各種イベントに活用されてきました。

昭和 38 年山口国体が行われる際は競技用水泳プールの建設が急ピッチでした。

皇 太子御夫妻もお出ましになった恩田公園プールも市民プールとして長く親しまれましたが、設備の老朽化に耐えられず、60 年余りの歴史に幕を閉じました。

宇 部球場として親しまれた野球場はイモ畑から復活して、野球場としての本来の姿を取り戻しました。高校野球、中学野球が盛んに行われ、時にプロ野球のオープン戦や二軍公式戦も行われました。



宇部球場(昭和 38 年)

やがて宇部球場も老朽化が進み、規則的な穴の開いた内外野のフェンスともお別れです。1998(平成 10)年改築工事が完了し、恩田運動公園野球場として生まれ変わりました。2011(平成 23)年、施設命名権(ネーミングライツ)の契約で「ユーピーアールスタジアム」が愛称に決定しました。施設名称「恩田運動公園野球場」、通称「宇部市野球場」は継続して使用することになりました。



ユーピーアールスタジアム

この年、4 月に巨人—ヤクルト公式戦が予定されていたのですが、東日本大震災により、日程が 2 週間ほど延びて、巨人主催のプロ野球公式

戦の開幕戦になってしまいました。宇部市民にとって複雑な思いだったことが思い出されます。

俵 田翁記念体育館は、現在もバレーボールのプロリーグ公式戦が行われていますが、山口県を本拠地とする B3 リーグプロバスケットチーム「山口ペイトリオッツ(※2)」の中心的ホームになっています。

恩田運動公園には彫刻も設置され、また石炭の元にもなったメタセコイアの並木や春を彩る桜並木など、季節により様々な景色を楽しむことができます。



The Age of Stone and Wind

今後都市型スポーツ広場を整備の予定とのことですが、どのように変わっていくのでしょうか。宇部市の歴史も垣間見える恩田運動公園の今昔とともに見守って行きたいものです。(波多野)

(※1)フィールドを低く掘り下げて、観覧席などの設備工事軽減のために、大量の土を運び出す必要があった。

(※2)英語で「志士」の意味、明治維新で貢献した長州藩の志士たちに因んで命名

S さんの英語小咄

「山口ゆめ回廊地域通訳案内士(信濃)」
第 1 回:ときわ動物園

S さんと友人 M くん

M:「ときわ動物園の動物を英語で何て言うか教えて」

S:「うん、dog、cat、giraffe、hippo、rhino…(※)」

M:「さすがやね。ん？そいつらときわ動物園におるか？」

S:「……」

突然、S くんが走り出しました。ボンネットモンキーを左手に見ながら、シオザルに目もくれず、トクモンキーを過ぎると。

S:「おった！」

M:「何が！！」

S:「おった〜！！！」



Otter(オッター:カワウソ)

(※) dog:犬、cat:猫、giraffe:キリン、hippo:カバ、rhino:サイ

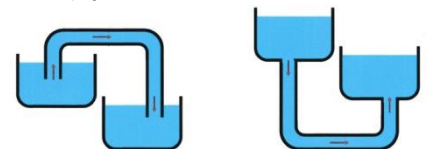
てくてくまち歩き 「こんなところに用水路が！」

2/27

2 月 27 日(日)、9 時 25 分、琴崎八幡宮駐車場に 27 名が揃い、軽く準備運動の後、2 つのグループに分かれてスタートしました。

常 盤用水路は、農業用及び工業用水の安定確保のため 1938(昭和 13)年に山口県が起工、5 年後に完成しました。今回は、琴崎八幡宮裏～常盤池(湖)長尺りのエゴ(入り江)までの用水路を辿りました。

厚 東川の水を常盤池まで送る約 8.6km の用水路ですが、どこを流れているのかほとんど目にするには無いと思います。厚東末信(広瀬浄水場の対岸)から取水した水は末信のポンプ場で一旦ポンプアップしてサイフォンに導いた後は、自然流下で常盤池まで流れていきます。「サイフォンの原理」は、理科の授業で習いましたが、用水路で使われているのは「逆サイフォンの原理」で、低い位置を通して水を送っています。



サイフォンの原理

逆サイフォンの原理

今の時期は、水を送っていない状態でしたが、もし幅 2m、深さ 1.5m の水路に水が流れていれば足を滑らして水路に落ちたりすると非常に危険です。それで日頃はフェンスがしてあり鍵がかかっているのですが、今回は特別に宇部興産様のご協力により、そばまで行くことができました。

水路は末信から常盤池までに、開渠（蓋をしていない水路）19 か所、暗渠（地下に埋設したり、蓋をかけたたりした水路）4 か所、隧道（1970 年以降はトンネルと言う）8 か所、架樋（川の上などまたぐ水路施設）4 か所、サイフォン（ここでは逆サイフォンで水路が河川、道路などの障害物を横断する際、その下に設けられる導水管のこと。大気圧を利用して排水）が 4 対ありますが、その一部を確認しました。



琴崎のサイフォン

常盤池は、宇部の領主・福原家老・椋梨権左衛門が指揮を執り 1698（元禄 11）年にかんがい用の溜池として築堤されました。昭和になり、厚東川ダムの湧水を補うため常盤池の水を農業用のほか、工業用として利用する計画がもち上がり、そのための十分な水を確保するため第二次世界大戦中にもかかわらず、山口県が厚東川から常盤池まで 8,582m に及ぶ導水路と、常盤池本土手から東見初炭鉱、宇部曹達工業までの 3,570m の水路を設けました。



長尺りからの注入口

2007 年には常盤用水の放水、受水関連施設が経済産業省の近代化産業遺産に認定され、宇部市にとり重要な施設であることがわかります。

常盤用水路を辿った後は、山門の赤松の池の近くを通り、上宇部小学校の近くにある水の

神で豊穡をもたらすといわれる農耕神の罔象女神（みつはのめのかみ）を祀る河内様に寄り、琴崎八幡宮バス停には 12 時 15 分帰着。高低差のある健脚コースでしたが、あちこちに見かける梅の花も楽しみながら、心地よい汗をかきました。水が如何に大事なものであるかを感じながら往復 6.3km の道のりを歩かれた皆さん、本当にお疲れさまでした。（脇）

〜〜「一枚の絵葉書から」〜〜



亀浦海岸ヨリ眺メタル鍋島ノ景

JR 常盤駅のそばの海岸 300m ほどの沖合に周囲約 160m、海拔 9m の小さな島があったことをご存知ですか？姿が良く、干潮時には陸続きとなって潮干狩りや磯遊びをしたという馴染み深い島でした。

江戸時代は周防と長門の国境の目印となっており、1842（天保 13）年刊行の『防長風土注進案』には鍋島のことを「床波黒崎より西南六丁程沖に有之、惣廻り九十間程人家無之松立少し有之候事」と記してあります。西には「宝珠瀬（ほうしせ）」と呼ばれる浅瀬があり、防長地下上申によれば、防長の国境は、この「宝珠瀬」でしたが、黒松の生えた小さな鍋島が目立つことから一般的には国境の島として親しまれてきました。

山口宇部空港が国際化に対応するため 2,000m の滑走路が 500m 延長されることになり、鍋島は 1999（平成 11）年に姿を消しました。漁場の目印として重要な役割を持つこの島に、床波の漁民が 1688（元禄元）年に巖島の三女神である市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）を勧請し床波荒人神社の末社として「鍋島様」を建立。島の上にはお社と鳥居がありま

した。海上安全と大漁祈願の守護神として信仰を集めており、新しく造った船の安全を祈願する「船おろし」の儀式は、女人禁制のため男性の親族だけ大漁旗、笹竹で飾った新造船で島に乗りつけて上陸しこの鍋島様で行われました。そのあと島の周囲を船で一周していたそうです。

木造船から強化プラスチック船に代わる頃の新造船は、年間 20 艘もあったことがあり、旧暦 6 月 17 日に行われてきた「十七夜祭」では、前年の 6 月 17 日から 1 年間に新しく進水した船の航海の安全祈願と海の幸への感謝をしていました。

1997（平成 9）年、11 月に床波漁港のなかの一字波戸に鍋島様が遷されましたが、この場所は、昔から海のなかに真水が湧き、賀保の庄の鎮守として宇佐八幡宮より勧請する際に禊をした神聖な場所であると伺っています。



白土海岸から見える現在の鍋島様

鍋島がいかに市民に惜しまれてきたかは、山口宇部空港の調整地の中に、1/2 の大きさのミニ鍋島、ときわ公園常盤神社のそばには、1/30 のミニ鍋島が作っており、島にあったシンボルの黒松やツワブキ、カワラヨモギなどが移植されたことでも知ることができます。個人的にも子ども時分、父親が背中に私を乗せたまま泳いで島に渡った思い出が甦ります。まるで大きな亀に乗って竜宮城に行った浦島太郎になった気分でした。

明治年間、手続きをしなかったために国有地となった鍋島は、島がなくなることに住民が反対できなかったようです。しかし、その後、1999（平成 11）年 9 月に発生した台風 18 号で山口宇部空港を高潮が襲い冠水、数ヶ月に渡つ

て機能が麻痺するという被害が起きています。巷では「鍋島様の祟りじゃ〜」と囁かれたとか…。(脇)

知っちょる？宇部のこんなところ「どんだけ道(どう)」

皆さん、「どんだけ道」をご存じですか？厚東の春日と二俣瀬の辻堂をむすぶ約1kmの旧山陽道の峠道です。呼び名には諸説あって『殿様だけが通る道』が訛って『どんだけ道』と言われるようになった、『どん嶽』という小高い丘を通っていたから』などと伝わっているようです。

厚東と二俣瀬の有志の方々が発起し、除草やごみ拾いなど定期的に清掃されています。陥没した所や水はけの悪い所の補修整備もされています。そのおかげでとても気持ちよく古道を歩くことができます。



どんだけ道玉木坂

厚東駅前の観光案内板、春日の案内板、「山陽道跡」「どんだけ道玉木坂」「殿様道」などの標柱もあり

ます。

地域で大切に守られている「どんだけ道」をお天気の良い日に一度歩いてみませんか？(池田)

第 29 回 UBE ビエンナーレ (現代日本彫刻展)

*** 中村厚子さんのお手伝い編 ***



みなさんお待ちかねの第 29 回 UBE ビエンナーレは、現在制作期間中、もう始まっていますよ！入選作品は昨年9月に決定、実物展示 15 点の制作も、各先生方の作業場で始まっているはずですよ。そして、今回は、我らふるさとコンパニオンの会のメンバーも、お手伝いを少しだけしてきました！

その作品は、中村厚子さん「掘ることは生きること、生きるとは掘ること」です。



模型作品 これが実物大になります

作品には、流木が大量に必要、しかも宇部市内にあったもの

のがよい、それには少し人手が必要、というお声がけがあり、10月13~16日、東岐波から西岐波周辺の海辺の流木を集めるというお手伝いに、決して若くはないメンバー計 10 名ほどが日替わりでお邪魔してきました。

流木を集めているのか、漂流物で楽しんでいるのか判らない我らを、作家さんとお父さんとお母さんが優しくご指導下さいました。案外、大きな流木も流れ着いているものですが。結果はこの夏まで楽しみにしましょう。そして、流木たちは、はるばる関東から乗ってこられたピックアップトラックに載せられ、県内の作業場まで運ばれて行きました。DATSUN、カッコイイ。

作業最終日の翌日、石炭記念館で待ち合わせ。というのは、先生の作品は、炭鉱を掘る人間の動きからインスピレーションを受けた、と作業中にお聞きし、それでは、当時を知る方にお会いになりますか、と軽くお誘いしたのです。急遽、元炭鉱マンの木下幸吉さんとのお話、廣畑学芸員による山炭生(やまたぶ)周辺の見学という石炭ツアーとなったのでした。

さて、どのような作品が、常盤湖畔に出現するのでしょうか。第 29 回 UBE ビエンナーレ、楽しみに待ちましょう！(遠藤)

まち歩き予定表

日付	企画名	集合場所	内容
4/23 (土)	てくてくまち歩き「観音岳の花崗岩と妻崎開作」約 4.5 km 健脚コース	厚東末信橋付近の駐車場	観音岳の花崗岩で厚南平野は開作された！その痕跡を訪ねる
5/14 (土)	てくてくまち歩き「草江は輸送機発祥の地、風を味わいませんか？」約 2 km	空港ふれあい公園駐車場	草江駅、ミニ鍋島、野外彫刻、ターミナル展望台、薔薇園
5/22 (日)	てくてくまち歩き「現代アートを巡る多美(たび)」② 約 2.8 km	宇部市役所前	G o ストリートウォーク～新緑のシンボルロード
6/19 (日)	てくてくまち歩き 市制施行 100 周年記念「常盤通りから…」約 5.5 km	宇部市役所前 常盤公園で解散	190 号線はなかった 100 年前、小郡方面への当時のメインストリートは？

■申し込み、お問い合わせ ※定員 30 名、受付は開催日の一ヶ月前からです。 当日連絡先 090-9060-9752 (脇)

てくてくまち歩き

宇部市観光交流課

TEL(34)8353

FAX(22)6083

